

★ 水稻 斑点米カメムシ類 情報

斑点米カメムシ類については7月25日付け病害虫発生予報第6号(8月)で、「**予想発生量：平年比やや多い**」として発表しています。特に、**畦畔雑草の管理が不十分な場で発生量が多くなっています**ので、今後の発生に十分注意し、防除指導をお願いします。

発生調査結果(7月中旬)

● 水田内での発生量

水田内のすくい取り調査の結果、確認地点率・平均虫数は府全体でそれぞれ16.7%・0.2頭であり、平年並の発生でした。府内各地域の発生状況は表1のとおりで、特に**山城地域で66.7%・0.7頭と平年に比べてやや多い発生**となりました。発生種は、トゲシラホシカメムシ、アカヒゲホソミドリカスミカメでした。

● 畦畔雑草での発生量

畦畔雑草すくい取り調査の結果、確認地点率・平均虫数は府全体でそれぞれ50.0%・10.8頭であり、**平年に比べてやや多い発生**でした。府内各地域の発生状況は表2のとおりで、特に**山城地域で83.3%・50.8頭と平年に比べて多い発生**となりました。主要な発生種は、アカヒゲホソミドリカスミカメ、アカスジカスミカメ、ホソハリカメムシ、トゲシラホシカメムシ、クモヘリカメムシでした。

● 予察灯への飛来数

予察灯での誘殺数(7月第1半旬～第4半旬までの4半旬の合計値)は、アカヒゲホソミドリカスミカメが**京丹後市弥栄町で68頭(平年：46.9頭)と平年に比べて多い値**になっています。

表1 斑点米カメムシ類の調査結果(7月中旬 本田20回振りすくい取り) 単位：%、頭

年	府内全域		山城地域		南丹地域		中丹地域		丹後地域	
	確認 地点率	平均 虫数	確認 地点率	平均 虫数	確認 地点率	平均 虫数	確認 地点率	平均 虫数	確認 地点率	平均 虫数
24年	16.7	0.2	33.3	0.7	22.2	0.2	0.0	0.0	11.1	0.1
平年	14.9	0.3	17.9	0.2	12.2	0.3	23.6	0.5	10.3	0.2
23年	10.0	0.1	16.7	0.2	0.0	0.0	16.7	0.1	11.1	0.1
22年	13.3	0.2	16.7	0.2	11.1	0.1	16.7	0.7	11.1	0.1
21年	16.7	0.3	16.7	0.2	11.1	0.3	16.7	0.2	22.2	0.3
20年	20.6	0.5	28.6	0.4	20.0	1.0	28.6	0.3	10.0	0.1

表2 斑点米カメムシ類の調査結果(7月中旬 畦畔20回振りすくい取り) 単位：%、頭

年	府内全域		山城地域		南丹地域		中丹地域		丹後地域	
	確認 地点率	平均 虫数	確認 地点率	平均 虫数	確認 地点率	平均 虫数	確認 地点率	平均 虫数	確認 地点率	平均 虫数
24年	50.0	10.8	83.3	50.8	33.3	0.3	66.7	1.8	33.3	0.6
平年	48.8	6.1	66.4	13.0	44.8	4.1	48.8	3.4	40.6	5.3
23年	53.3	12.9	83.3	39.0	11.1	0.2	50.0	6.0	77.8	12.7
22年	43.3	3.6	66.7	11.7	33.3	2.3	16.7	0.3	55.5	1.7
21年	46.7	4.1	100.0	14.3	33.3	1.3	50.0	1.5	22.2	1.9
20年	41.2	6.5	57.1	13.3	50.0	10.8	57.1	2.9	10.0	0.1

今後、写真のようなカメムシ類が雑草地等で増殖し、出穂後の水田に侵入することが懸念されます。



アカヒゲホソミドリカスミカメ



アカスジカスミカメ



ホソハリカメムシ



トゲシラホシカメムシ



クモヘリカメムシ



ミナミアオカメムシ

防除上の注意事項

●耕種的防除

水田周辺のカメムシ類の生息密度を下げるためには、**畦畔の草刈り**を行い、**カメムシ類の餌となるイネ科雑草の出穂を防ぐ**ことが有効です。

草刈りは、**水稻の出穂2～3週間前と出穂直前の2回行うと効果的**です。作業の都合上、**1回で済ませる場合は、必ず出穂の10日前までに草刈り等を済ませて**ください。出穂期に近づきすぎてから行くと、カメムシ類を水田に追込み、かえって逆効果となります。

現在、カメムシ類の発生が少ない地域でも、雑草管理には十分注意してください。

水田内のイネ科雑草は、カメムシ類の水田への侵入を助長するので、雑草の出穂前に除草してください。

適期に草刈り等を行うことで斑点米の発生を抑えてください。

●農薬による防除

農薬の選択に当たっては普及センター、農協等と相談し、使用基準を遵守して適正に使用してください。

農薬の散布に当たっては散布適期を確認して、周辺作物に飛散しないよう十分注意してください。

カメムシ類の密度が高い水田では、薬剤による防除を穂揃期と傾穂期の2回行うことが望まれます。

なお、最新の農薬情報は農林水産省ホームページの「農薬コーナー」の「農薬情報」をご覧ください（<http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/index.html>）。

●要注意種

平成24年7月上旬に、京田辺市の予察灯でミナミアオカメムシの誘殺を確認しています（府内では過去に京都市以南で発生を確認しています）。

本種は他の斑点米カメムシ類に比べて体が大きく吸汁量が多いため、少数でも被害が大きくなります。また、本種は広食性で、水稻のほか、大豆、野菜類、果樹類等を加害することが知られていますので、今後の発生状況に注意してください。